

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご了承くださいませようお願いいたします。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) メインクエスト編



共通メインクエスト その2

生命、マテリア、すべての答え ～ 富と国のため

生命、マテリア、すべての答え

ミンフィリア：これからの戦いに備えて、あなたに紹介したい人がいるの。「**ミュタミクス**」というゴブリン族の学者よ。
彼は、武器や防具の強化について、独自の素晴らしい技術を持っているわ。そして、それを冒険者に広めたいと考えている……。
ゴブリン族に偏見を持たない篤学（とくがく）の士に未来を託したいと、常々言っているそうなの。
あなたが望めば、きっと協力してくれる。
剣を一振り預けるから、その目で直接、彼の技術を見ていらっしやい。
ミュタミクスの工房があるのは、中央ザナランの「狼煙の丘」。不思議な色の煙が見えたら、そこが目的地よ。

ミュタミクス：とつぜん なんぞ なにようぞ〜？



????：武器にやどりし ヒトがココロ〜。マテリアかわりて かがやきはなつ〜。
マテリアかがやき ココロのキオク〜。あらたな武具へと マテリアつけりや〜。
キオクのチカラ うけつぐぞ〜！ いかなるチカラを うけつぐか〜？

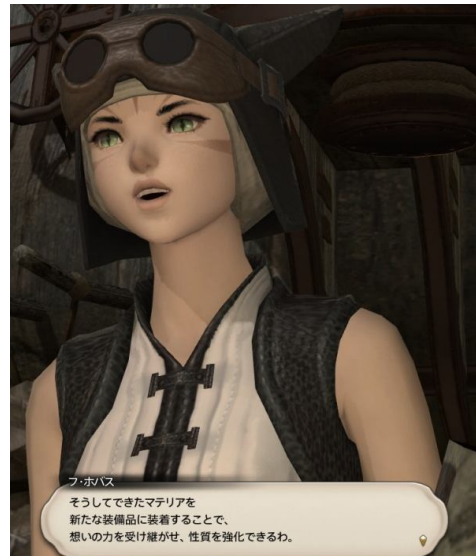
ミュタミクス：はよう ためして みたいぞな〜！
シュコオ……シュコオ……。わしや カガクシャ ミュタミクス！ おぬしや だれぞ なにもんぞ〜？
おやおや ミンフィの使いぞな〜？ たしかに 連絡 うけたぞな〜！
マテリア おしえて 強くしろ〜。そんな 依頼を うけたぞな〜！ はいじゃ 武器を かしてみよ〜！
こいつあ しょんぼい 武器だぞな〜！ マテリア つけにや しょんぼいままぞ〜！

スヴァインブルース：お師様、これを。

ミュタミクス：シュコオ……シュコオ……。ほれほれ 一同 ご注目〜！ マテリアつけりや〜 かがやきはなつ〜。
はいはい できたぞ 成功ぞ〜！ しょんぼい武器が びかびか武器ぞ〜！ こいつを ミンフィに 渡すぞな〜！

スヴァインブルース：マテリアとは、使い込まれたことで、人の想いが染みついた武器や防具を、特殊な技術で結晶化させたもの……。

フ・ホバ：そうしてできたマテリアを新たな装備品に装着することで、想いの力を受け継がせ、性質を強化できるわ。



ココサム：今回のようにボロ武器は、そこそこ使えるようになり、強い武器は、より強くすることができるということだな。

ミュタミクス：シュココ……シュココ……。おぬしや ちしきの たんきゅうしゃ〜？
マテリア しりたきや 鍛錬ぞ〜。クラフタ ちしきを 深めれば〜。おのれで マテリア つけられる〜！
マテリア ちしきを 極めれば〜。おぬしの 武具は てんかいち〜！
きょうみ あるなら 鍛錬ぞ〜。そこなる 弟子に 習うぞな〜！



ミンフィリア：おかえりなさい！ ミュタミクスの技術を間近で見て、どうだった？ なにか得るものはあったかしら？
……やっぱり、「マテリア」を装着すると違うわね。扱うには技術が必要だって聞けれど、
あなたなら、きっと活用することができる。
あなたはこれからも、多くの戦いに身を投じるでしょう。勝つため……そして万が一にも負けないために、装備の強化は必須事項よ。
それがわかったら、次の作戦の話をしましょう。ちょうど、サンクレッドから報告が入っているの。

猛る焰神イフリート

ミンフィリア：あなたが追っていた、クリスタル強奪事件と貧民誘拐事件について、進展があったわ。
司祭のふりをしていた、ウグストという商人を覚えてる？ 事件の黒幕……アマルジャ族との商談の予定を彼が吐いたのよ。
アマルジャ族は、ウグストが捕らえられたことを知らない。次の商談に出てきたところが、絶好の機会になる。
「不滅隊」は、そこを叩くつもりだわ。
そこで、あなたにも不滅隊の作戦へ参加してほしいの。「暁の血盟」の代表としてね。
サンクレッドは別件があって、遅れて合流するそうよ。「俺の出番も残しておいてくれよ」ですって。
フフ……すっかり信頼されたみたいね。
わたしもあなたを信じて、この大役を任せたい。準備ができれば「キャンブ・ドライボーン」で待機中の不滅隊に合流してくれるかしら？
奇襲とはいえ、好戦的なアマルジャ族が無抵抗のまま投降するとは思えない……。きっと、あなたの力が必要になるわ。

不滅隊副軍曹：「暁の血盟」の協力者か？ 待っていたぞ、作戦開始まであまり時間がないのだな。
本作戦の目的は、アマルジャ族を捕らえ、誘拐された人々の行方を突き止めることだ。
捕らえた商人「ウグスト」を囷にし、何も知らないアマルジャ族が商談をはじめたところを押さえる。強引な手も辞さん。
奇襲の成功に必要なのは、モングレルの如き鋭い牙を持つ、一握りの精鋭だ。
自信がなければ、ここで快報を待つがいい。
……そのつもりはなさそうだな。では、すみやかに「見えざる都」に向かい、待機せよ。
アマルジャ族の怪しげな動き、この作戦の成功をもって必ず暴いてくれようぞ！



不滅隊副軍曹：囷の商人はどうなっている？

不滅隊二等闘兵：すでに配置についています。

不滅隊副軍曹 : よし、アマルジャ族が接触したら、一気に取り押さえる。誘拐された人々の居場所を吐かせるんだ。

不滅隊二等騎兵 : ハッ！

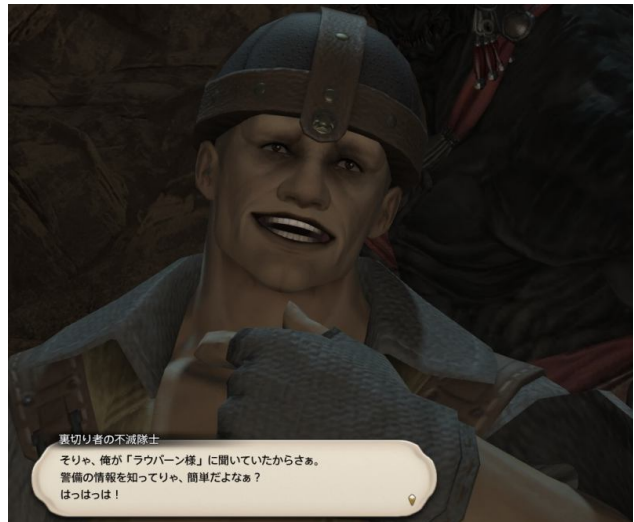
ウグスト : うわあああ！

アマルジャ族の戦士 : 何事なるか！？



不滅隊二等騎兵 : お、おい……。様子が変だぞ……。

ウグスト : くくく……！ ひゃっひゃっひゃ！



裏切り者の不滅隊士 : はっはっは！
作戦を伝える相手を、間違えたようだなあ？ 取り押さえられるのは、お前たちのほうさ！

ウグスト : 俺たちがこれまで、どうやって不滅隊の警備を抜けて取引してきたのか、これでわかったか？

裏切り者の不滅隊士 : そりゃ、俺が「ラウバーン様」に聞いていたからさあ。警備の情報を知ってりゃ、簡単だよなあ？ はっはっは！

ウグスト : バカな奴らだぜ！ ひゃっひゃっひゃ！

裏切り者の商人 : さて、そろそろ……。

裏切り者の不滅隊士 : いっしょに来てもらおうか。あとは頼んだぜ、アマルジャ族のみなさん。

ウグスト : ひゃっひゃっひゃ！ 頼みますよ、アマルジャ族の皆さん！

不滅隊副軍曹 : くそったれ！ やるしかないのか！

不滅隊の格闘士 : む、無念……！

ウグスト : はっはっは！ いつまで耐えられるかなあ？

不滅隊副軍曹 : 増援か……持ちこたえろ！ 不滅隊の力をみせつけてやれ！
まだ出てくるのか！？ くそっ、このままでは……！

ウグスト : ひゃっひゃっひゃ！ こいつは、いい見世物だぜ！

裏切り者の不滅隊士 : ヘッヘッヘ！ おとなしくしてろ！

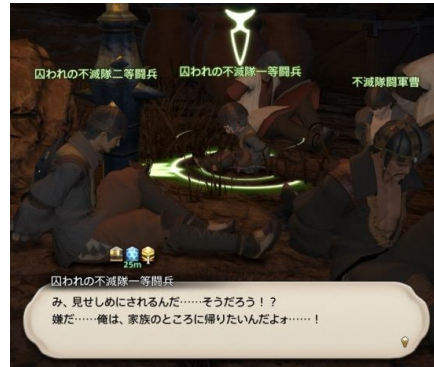
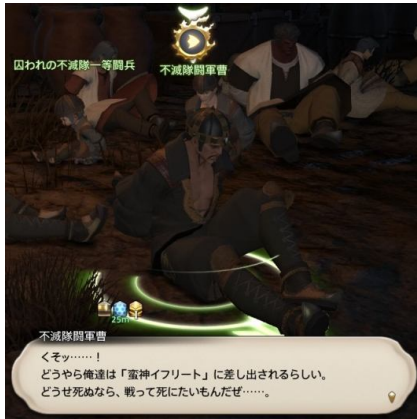
不滅隊二等闘兵：危ない！

裏切り者の商人：連れていくぞ。

裏切り者の不滅隊士：お前らもさっさと歩くんた。

不滅隊闘軍曹：国賊め……。

不滅隊闘軍曹：くそッ……！ どうやら俺達は「蛮神イフリート」に差し出されるらしい。どうせ死ぬなら、戦って死にたいもんだぜ……。くっ……まさか不滅隊から裏切り者が出るとは。誇りは既に失われたというのか……！ 巻き込んでしまって、すまない。私に部下を見る目がなかったばかりに……。



囚われの不滅隊一等闘兵：み、見せしめにされるんだ……そうだろう！？ 嫌だ……俺は、家族のところに帰りたいんだよ……！

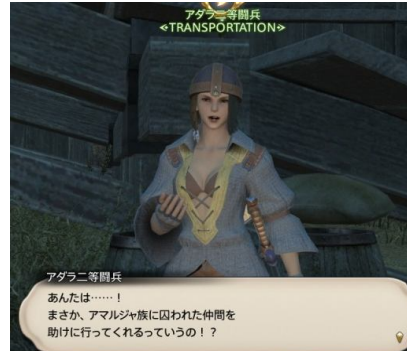
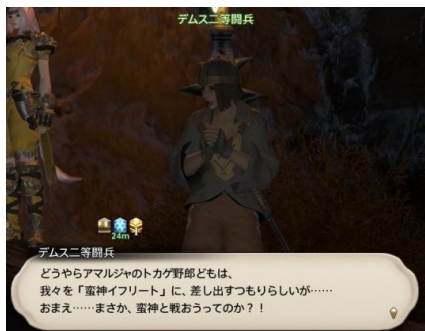
囚われの不滅隊二等闘兵：気がついたんですね。……ご覧の通り、状況は最悪だ。ここはアマルジャ軍陣地の一角のようです。連中は何かの準備をしています、それが終われば、僕たちは……。



不滅隊二等闘兵：おい……黙って聞いてくれ。実はこの水辺、ドライボーンの沼地につながってるんだ。だが、皆で一齐に逃げ出したら気付かれちゃう。お前ひとりでここを抜けだして、仲間や武装を整え、俺たちを助けに来てくれないか？ 無事外に出られたら、ドライボーンにいる俺の相棒を訪ねてくれ。またここまで案内してくれるはずだ。

デムス二等闘兵：どうやらアマルジャのトカゲ野郎どもは、我々を「蛮神イフリート」に、差し出すつもりらしいが……おまえ……まさか、蛮神と戦おうてのか？！

アダラ二等闘兵：あんたは……！ まさか、アマルジャ族に捕らわれた仲間を助けに行ってくれるっていうの！？



アマルジャ族 : 御神よ、我らが誓願を届け給え……。御神よ、我らの祈願を叶え給え……。御神よ、我らに慈悲を与え給え……。

テムグ・ソー : 創世の業火をまといし、猛き神よ！我が父祖に「戦士の炎」を灯したもうた、いと高き神よ！
焰神イフリートよ、来たりませ……！
御神よ……。これらは、神知らぬ無知なる者なり。
御神の聖火をくべ、悪しき心を焼き尽くし、新たな「信徒」として、はべらせ給え！



不滅隊閼軍曹 : くそ……。

アマルジャ族の戦士 : その方らもだ！いやしい人の子よ！

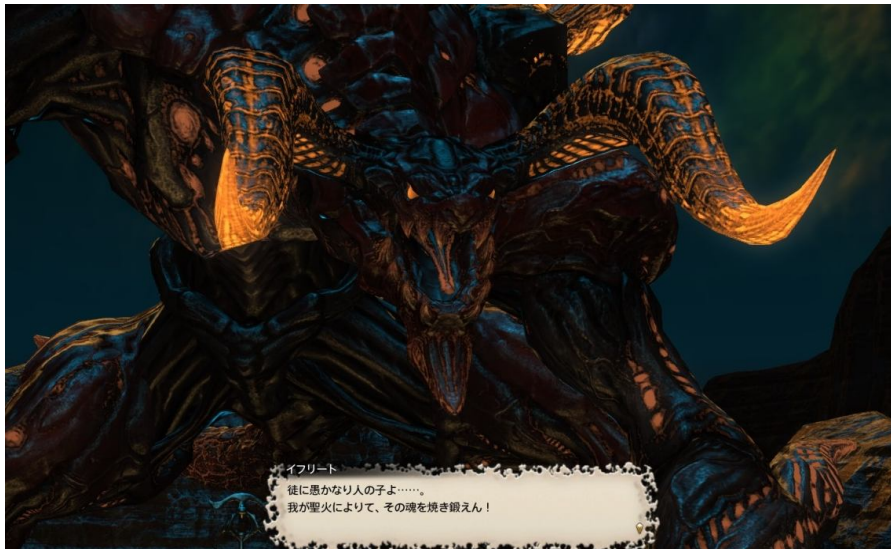
裏切り者の商人 : いててて……。

裏切り者の不滅隊士 : お前ら話が違うぞ！！おい！ くそっ……！

アマルジャ族の戦士 : 我らが秘策を、露見させたるは貴様の失態なり！ゆえに貴様も、その魂を焼かれるべし！

裏切り者の商人 : た、助けてくれえ！

イフリート : 徒に愚かなり人の子よ……。我が聖火によりて、その魂を焼き鍛えん！
我が信徒となりて、我に折れ！ 我を求めよ！その願いが……魂の慟哭が……。我が炎を燃え上がらせる！



不滅隊閼軍曹 : 我らが御神……イフリート様……。

不滅隊二等閼兵 : どうか、願いをお聞きください……。

裏切り者の不滅隊士 : 我らが至高の神、イフリートよ……。

テムグ・ソー : めう……奇々怪々……。なぜゆえ貴様の魂は焼き鍛えられ、信徒に……「**デンバード**」にならぬ！？
もしや……。
貴様らは、既に外の神の祝福を！？ 愚かなり……！ 粗野なる神に魂を売ろうとは！

イフリート : ほかの神の祝福を受けておれば、余の祝福が届かぬのも道理なり……。
しかし、お主の魂からは、他の神の色が見えぬ……。
徒に厄介なり……。神降ろしも知らず、祝福を得るとは！
「**天使い**」殿の警告せしめし、「**神無き祝福**」か……。なれば、禍根残さぬためにも始末してくれよう……。
さらば神知らぬ人の子よ！

イフリート : 勇猛無比……我が力を思い知るがいい！
力戦奮闘……されど我が敵にあらず！
兵貴神速……「**炎獄の楔**」にて、この者へ裁きを！
永遠偉大……我が「**地獄の火炎**」に焼かれよ！
正々堂々……我が敵に相応しい！
不倶戴天……その祝福……もしや光の……！？

サンクレッド : 大丈夫か！
助けが遅れて、すまない！ アマルジャのヤツらに手こずってしまった。
チッ！
ふう。
人質を無事に救出できたな。さすがは局長直属の「**ブラッドソーン隊**」だ。
あいつらには、じっくりと聞けることがあるからな。爪の5、6枚は覚悟してもらうさ。
すまない、初めての作戦参加だったのに、大変な思いをさせてしまったな……。
おっと、話は後にしよう。

ネロ : 蛮神「イフリート」……か。
思ったほどの数値じゃねえなあ。さては、ウルダハが上手く抑え込んでやがったな。

???? : **ネールの第VII軍団**が、5年前に残した情報なんて、アテになるわけないじゃない。
それに本国の政情じゃ、調査への協力なんて期待できるわけないし。自分たちの目以外は信用できないわ。

ネロ : やれやれ。リウィアは厳しいねえ。



リウィア : こっちも撤収しましょう。どっちにしろ、旧式の魔導測針では、それが限界よ。

ネロ : この程度のカリヤ、計測の意味はなかったが……。まあ、当初の目的は達成できたんだ。よしとするか。
……さっきの冒険者はどうするんだ？ あのカ、脅威になるぞ。

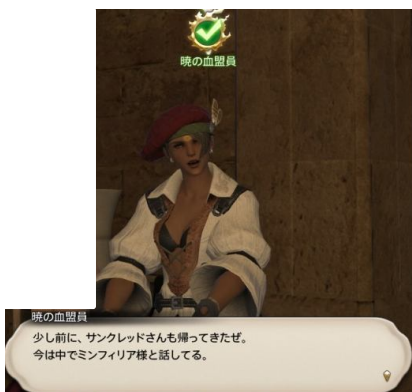
リウィア : 興味はあるけど後回しね。少なくとも今はまだ、障害にならないわ。
そんなことより……。ネロ、あんたは早く自分の仕事を完遂することね。ガイウス様の宿願を成すために。
グズグズしてると……。
殺すわよ。

ネロ : ヒュー。恐ろしい女だぜったく。
恋する女はなんとやら……。か。

サンクレッド : どうにか逃げきれたな……。頼みの蛮神が倒れたんだ。アマルジャ族も深追いはしてこないだろう。……すまない。蛮神イフリートのことを知っていたのに、お前に何もしてやれなかった。人質だって、助け出すことができて、こうしてテンパードになっていては……。いや、今はまず、お前の健闘を称えるべきだな。蛮神を倒すなんて、並大抵の冒険者にできることじゃない。その強さは、世界を変えていける力だ。◆◆◆……お前は、かけがえのない同志になる。この活躍を、ミンフィリアにも伝えてやらないと！ 伝令くらいは任せてくれよ？ なにせ、俺は今回からつきだったんだ。お前は少し休んでから、砂の家に戻るといい。この件について、説明が要るだろう。



暁の血盟員 : おつ、噂をすれば……。よく帰ったな、◆◆◆！
少し前に、サンクレッドさんも帰ってきたぜ。今は中でミンフィリア様と話してる。さ、お前も早く入れよ！ 勇者のご帰還なんだ、きっと喜ぶぞ。



サンクレッド : すまない、ミンフィリア。俺が付いていながら、あいつを危険な目に遭わせてしまった。それどころか、蛮神「イフリート」と戦わせることになるなんて……。今回の事件、結局は、あいつの力に頼ってばかりだった。あいつのために、俺にも何か、できることがあればいいのだけど……。

ミンフィリア : サンクレッド……。おかえり！

サンクレッド : よお、おつかれさん。ちょうど今、簡単に報告していたところさ。

ミンフィリア : サンクレッドから話は聞いたわ。やはりアマルジャ族の目的は、蛮神「イフリート」の召喚だったのね……。

サンクレッド : 今回の依頼は、クリスタル強奪、そして貧民の誘拐という、2つの事件だった。実は、これらの事件は、ウルダハに限ったことではない。表に出ないだけで、リムサ・ロミンサやグリダニアでも起こっているのさ。

ミンフィリア : これが、あなたに理解してほしかった、「蛮神問題」の一端よ。

サンクレッド : まず、クリスタル強奪事件……。キャラバンが襲われ、クリスタルを強奪された理由。
蛮神が活動するには、生命の源である**エーテルが必要**となる。蛮神の力が強大になるほど、その量は多くなっていく。蛮神「イフリート」ほどの力になれば、大気に漂うエーテルだけでは足りなくなる。……そこで蛮族はクリスタルを使うんだ。**結晶化したエーテルであるクリスタルを直接、摂取することで、より効率的にエーテルを吸収**できるってわけさ。

ミンフィリア：だから、蜜神に紐付いた事件には、クリスタルが関連することが多いわ。

サンクレッド：そして、誘拐事件……。ウルダハの貧民窟から人が消えていた理由。
蜜神は本来なら、目に見えず、触れることもできない存在。つまり「生まれにくいもの」だ。

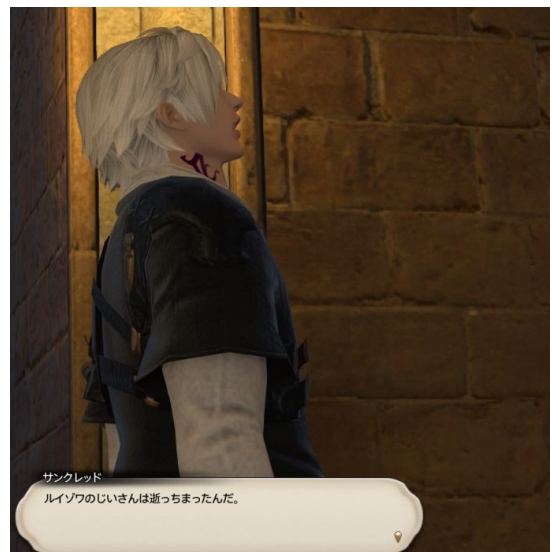
ミンフィリア：蜜神は元々、辺境に蟠踞する蜜族が、守護者として崇める大いなる存在だった。
でも、世の中の理が乱れ、蜜神を信じる者たちの「神降ろし」によって、顕現するようになった。
蜜神は、祈りや願いで生まれ、育つ。思いが強いほど、蜜神は強大な力を得るわ。

サンクレッド：蜜神は自分自身をより強くするために、テンバードと呼ばれる「信徒」を増やしている。だから、信者となる多くのものが必要なのだ。

ミンフィリア：あなたが、蜜神のテンバードにならなかった理由。それは、あなたの力。
わたしや、あなたの能力である「超える力」。この力を持つ人は、蜜神のテンバードにならない。
詳しい理由はわからないわ。でも、まるで何かに護られているよう……。
それだけ「超える力」は特別な力なの。蜜神への切り札と言ったのはそのためよ。

サンクレッド：今回の事件は、組織的、かつ計画的なものだった。第七霊災からこっち、蜜族の動きが変わってきているんだ。嫌な予感がする。

ミンフィリア：ともあれ、あなたたちが無事でよかった！
この事件の背後関係は、引き続き不滅隊が追うそうよ。ひとまずは安心して。
2人とも、おつかれさま！ ゆっくりと休んでね！
それにしても、蜜神「イフリート」を倒した冒険者か……。フッフ。
この後、大きな騒ぎになるかもしれないわよ？

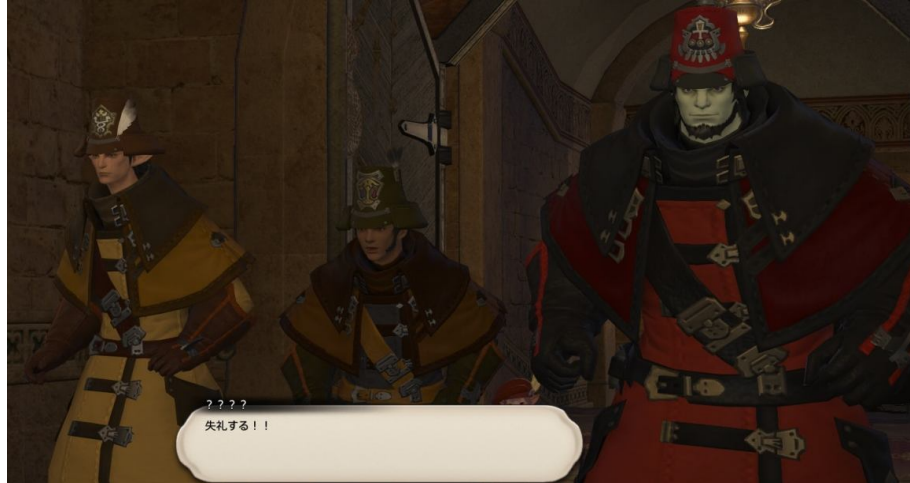


サンクレッド：ミンフィリアは敢えて言わなかったようだけど……。
ウルダハでは、蜜神の信徒になった人間は、極秘裏に「処分」されてるんだ。
蜜神「イフリート」の力を弱めるために、仕方がないこととはいえ……。正直辛い事実さ。
これ以上、犠牲者を増やさないためにも、「晩の血盟」は活動し続けなければならない。これからもよろしくな。
そういや、ラウバーン局長にも、ずいぶんと迷惑をかけちゃった。挨拶に行かないとなあ。
ルイゾフのじいさんは逝っちゃったんだ。
私が……。俺がもっと力をつけて、みんなを守らないとな。

英雄の卵

ミンフィリア：あなたは、ついこの間までひとりの冒険者だった。
それがほんの僅かな間に、一国の使者となり、わたしたち「暁の血盟」と手を取り合い、ついには、蛮神「イフリート」を退けてしまった。
これがエオルゼア諸国にとって、どれほどの意味を持つのか、わかるかしら？
……さっそく来たわよ。大きな騒ぎが。

????：失礼する！！



不滅隊の将校：これはこれは、ミンフィリア殿！ いつもお美しゅうございますな！

双蛇党の将校：いやいや、この「暁の血盟」に、新たな英雄が生まれたという噂を聞きつけましてな！

黒渦団の将校：ぜひとも我がグランドカンパニーへ加入していただきたく、こうして、出向いてきたのでありますよ！

ミンフィリア：そうなの……。あなたはもう、エオルゼア諸国の注目の的なのよ。「光の戦士たち」の再来と噂されてね。
蛮神を退ける力を持つような、有能な冒険者……。『英雄の卵』がグランドカンパニーに加入すれば、
それだけ戦力と求心力が高まることになる。
だから噂が広まると、我先にとって感じで、こうやって大挙して押し寄せてくるってわけ。
さてさて……。一緒に作戦に参加した「不滅隊」はまだしも、ほかの国へおしゃべりしたのは、いったい誰かしらねえ？

タタル：ヒッ！？ あわわわ……。



双蛇党の将校：君の噂は聞いているよ！ まさか、蛮神「イフリート」を退けるなんて！ 大した奴だよ、君は！
ぜひ、グリダニアの「双蛇党（そうじゃとう）」へ加入してくれたまえ！
ともに、カヌ・エ・センナ様にお仕えしようではないか！

不滅隊の将校：君が噂の冒険者だな！ うんうん、言わんでもわかっとなぞ！ 我々とは共同戦線を戦った戦友だからな！
我がウルダハにおける君の活躍も記憶に新しいところ……。これはもう運命と言えよう！
ぜひ、ウルダハの「不滅隊（ふめつたい）」へ加入してくれたまえ！ 我らがラウバーン局長もお待ちしとるぞ！

黒渦団の将校：噂とおりの凛々しい顔立ちだ！ メルウィブ提督も君のことを言っておられたよ。
あいつは英雄になる素質を持っているってね！
ぜひ、リムサ・ロミンサの「黒渦団（こっかだん）」へ加入してくれたまえ！ メルウィブ提督とともに、大海を征そうじゃないか！

各国の将校たち：ミンフィリア殿！！

ミンフィリア : ハイ、ハイ……。
もう知ってると思うけど、グランドカンパニーというのは、世界に迫る危機へ立ち向かうために、エオルゼアの都市国家群によって設立された組織よ。
リムサ・ロミンサの「黒渦団」、グリダニアの「双蛇党」、それにウルダハの「不滅隊」の3つがあるわ。
グランドカンパニーに加入するということは、その国に務めるということ。
国を守ったり豊かにするための「任務」があたえられるの。
その「任務」をこなしていけば、さまざまな報酬があるはずよ。冒険に役立つものも、あるかもしれないわね。
難しく考える必要はないわ。加入したグランドカンパニーが合わなかったとしても、あとで移籍できるから、気楽に考えるといいわよ。
そうだ、いい機会だわ！ ちょうど、「カルテノー戦没者追悼式典」が、各地で行われるのよ。
式典では、各国のグランドカンパニーの盟主が演説をするという予定もあるわ。
今すぐは決めかねると思うから、ゆっくり演説を聴いて、どこの国のグランドカンパニーへ加入するのか決めるのがいいんじゃないかしら？

双蛇党の将校 : おお、それは良い！ 勢い余って、些か先走りしましたかな！

不滅隊の将校 : さすがミンフィリア殿！ いやいや、楽しみですな！

黒渦団の将校 : それでは「カルテノー戦没者追悼式典」のあと、我々に声をかけてもらえますかな？

各国の将校たち : それまで、ここでお待ちしております！！



ミンフィリア : 組織に縛られるのは嫌って考え方もあると思うけど、わたしは、あなたが、いずれかのグランドカンパニーに加入することをお勧めするわ。
……大きな力を持つ人間がフラフラしていると、いろいろなことが起こるものよ。それも「悪いこと」が多くね。
あなたほどの能力があれば、どこか大きな組織に所属しているべきなのよ。ほかでもない、あなた自身を守るために。
そして、グランドカンパニーに加入しても、このまま「暁の血盟」に協力し続けてくれるとうれしいわ。
グランドカンパニーは主に各国を守り、わたしたち「暁」は、エオルゼア全土を平和へと導く。役割は違うのだから。
そうそう、あなたにこれを渡しておくわね。「リンクパール」よ。
これで、あなたがどこかへ冒険に行っても、グランドカンパニーの任務に参加していても、
いつでも、わたしからの連絡を受け取れるようになるわ。
あなたを中心に、エオルゼアが動こうとしている。……エオルゼアがどういった未来へ進むのか。
とっても楽しみな半面、少し怖くもある。
だから、わたしはあなたの側に居るつもりよ。真実を見続けるために。
グランドカンパニーの詳細や、演説の場所については、タタルさんが把握しているわ。彼女に確認してみてね。

ウリエンジェ : 5年前のあの日、この地に破滅をもたらしたのは帝国軍だけではありませんでした……。
火を噴く、巨大な黒き龍……。ある者はそれを伝説の龍神と呼び、ある者は、**隠された記憶の暗喩**だと主張しています……。
我々にしても、その全容はつかめていない……。**堕ちた月の真実**を求め、調査が続いています。



ヤ・シュトラ : 聞いたわ、あなたの活躍。そもそも足手まといには声をかけないけれど……正直、予想以上よ。
それにしても、サンクレッドったら、肝心のときにいないんだから。あと一歩、登場が遅かったら……大惨事だったわね。

イダ： 演説どうだった？ あたし、あーいうの苦手なんだよねえ……。

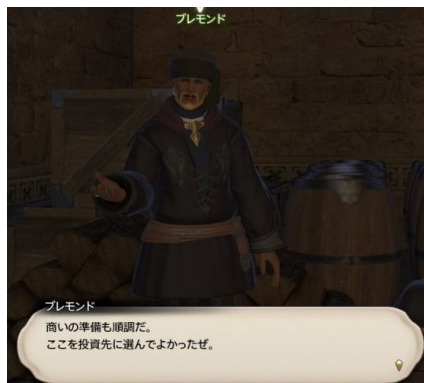
ババリモ： カルテノー戦没者追悼式典……。5年目にして、やっと実現したってわけだ。
あのとき、三国のグランドカンパニーは手を取り合い、エオルゼア同盟軍として、帝国の軍勢と戦った。
式典で盟主たちが演説するのは、そのためさ。
けど、あの戦いの記憶は焼けたままだ。何に殺され、何に救われたのか……真相は誰も知らないのさ。



サンクレッド： お前を見習って、俺も頑張らなきゃな。この前みたいな無様は、もう御免だぜ。

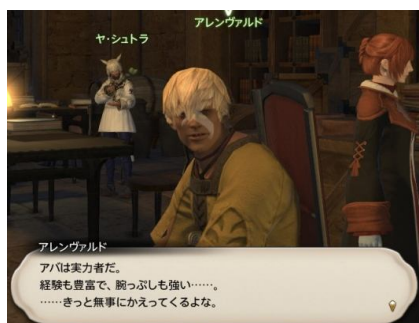
ブレモンド： 商いの準備も順調だ。ここを投資先を選んでよかったぜ。

ウナ・タユーン： もぐ……もぐ……。隣のベルスバンって男……確か、わたしの仲間だった男よ。いまいち思い出せないけど。
当時はイケすかない格闘士だったような……。まあ、向こうもよく覚えてないみたいだから、
お互いさまよねっ！？



アレンヴァルド： アバは実力者だ。経験も豊富で、腕っぶりも強い……。……きっと無事にかえってくるよな。

オリ： あのガナリ屋のミコッテ族の男も、いなきやいないで、ちょっと寂しいものね。
不滅隊との共同作戦で、アマルジャ族のキャンプに奇襲をかけるんですって。
……あー、うらやましい！！



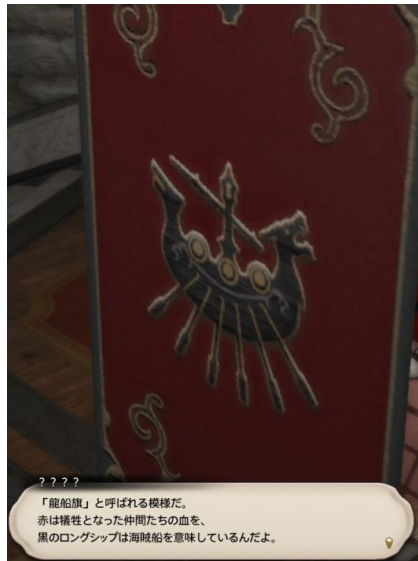
タタル： 危ないところだった。おしゃべりは、災いのもとでっす……。
私は黒々とお仕事に動きます。グランドカンパニーの演説の情報でっすよね？
まず、リムサ・ロミンサの「黒渦団」。アドミラル・ブリッジにある「作戦指揮所」で、メルウィブ提督が演説なさいまっす。
アドミラルリフトの前に「ザントヘル甲軍曹」がいらっしやいます。声をかければ、会場に案内してくれるはずでっす。
次に、グリダニアの「双蛇党」。「ミィ・ケット音楽堂」にて、盟主のカヌ・エ・センナ様がお話をされるとのことです。
最後に、ウルダハの「不滅隊」。「ロイヤル・プロムナード」で、ラウバーン局長と……
噂では、特別な来賓も登壇するとか。
すべての演説会場に入れるよう配慮されておりますので、お好きな順で回ってみてはいかがでっすか？
人気者になると、あっちへこっちへ大変でっすね。お気をつけて、行ってらっしゃいませ！！



ザントヘル甲軍曹： メルウィブ提督の演説を聴きにきたのか？ ならば早く入れ、間もなくはじまるぞ。

メルウィブ： 聞け！ 誇り高き海の民よ！ 思い起こせ！ 魂揺さぶる我らの旗を！
伝説の建国船「ガラディオン」号が漂着し、**リムサ・ロミンサの礎が築かれた**のが、今から**700年前**。
皆、海洋と航海の神リムレーンに導かれ、海の民として生きてきた！

????： メルウィブ提督の後ろ……。リムサ・ロミンサの国旗を見てごらん。
「龍船旗」と呼ばれる模様だ。**赤は犠牲となった仲間たちの血を、黒のロングシップは海賊船を意味している**んだよ。

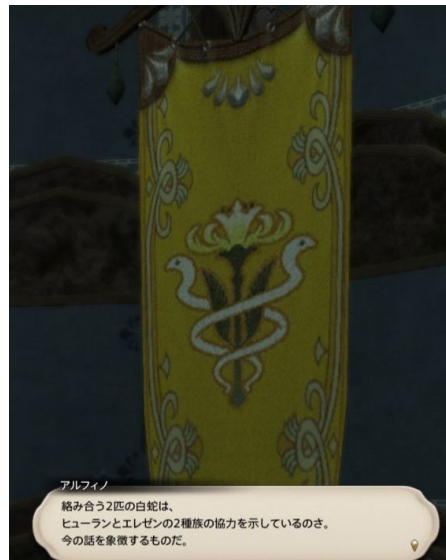
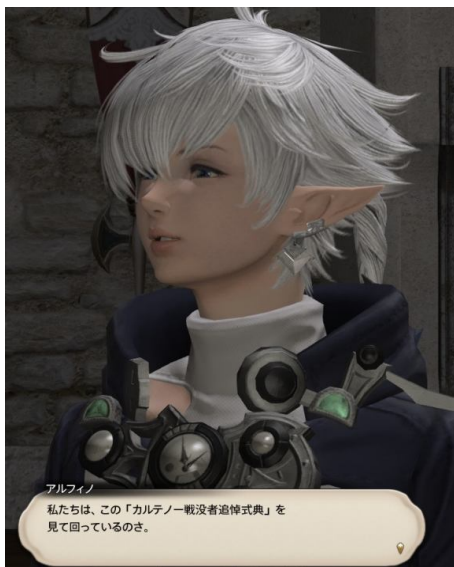


メルウィブ： エオルゼアを侵略してきた「ガレマール帝国」に対して、我々はグランドカンパニー「黒渦団」を結成した！
5年前、帝国との「カルテノーの戦い」においても、直前にヒルフィル以下の海賊諸派と同盟関係を結び、ガラディオン協定を成立させ、共に戦いに挑んだ！
海の民の底力を見つけたのだ！
しかし、結果は皆が知ってのとおりだ……。黒渦団、海賊勢力とともに、カルテノーでは多くの者が死んだ。
自由のため、己の正義のために戦い、苦しくも陸（おか）の上で散っていった者たちに、哀悼の意を！

????： 自由か……。そう、人はみんな利己的さ。
でも、それは蛮族だって同じはずだ。人と蛮族は、根本的には何も変わらないのだから……。

メルウィブ：この5年、我々は決死の思いでリムサ・ロミンサを復興してきた。
第七靈災の傷は深く、未だ癒えきらない。
そんな中、リムサ・ロミンサは以前にも増して輝き、「**リムレーンのパール**」の名に恥じない都市へ復興を遂げることができた！
しかし、この我々の努力を、踏みにじろうとしている奴らが居る！
蛮神「**リヴァイアサン**」を信奉するサハギン族が、ついに上陸した。
そして、蛮神「**タイタン**」を信奉するコボルド族が、オ・ゴモロ山を出て南下してきている。
この蛮族たちは、今後のリムサ・ロミンサの繁栄に、大きな壁となって立ち塞がるだろう。
さらには、ガレマール帝国だ！
帝国軍が、リムサ・ロミンサ領内に砦を築いた。全面衝突も時間の問題だ。
リムサ・ロミンサは今、3方からの敵に囲まれている。然るに、国内に海賊問題を抱え、内部が一枚岩ではない。
今まさに、我々は嵐の中にいるといえよう！
この嵐の中、我らが取るべき進路はただひとつ！
蛮族、帝国を打ち払い、リムサ・ロミンサが新たな世へ進むための航路を拓くのみ！
そのためには、第七靈災の後、分裂した海賊諸派と黒渦団が再び手を取り合い、冒険者ととともに一丸となって困難に立ち向かうほかない！
不可能は人が作り出すもの。返せば、可能もまた、人が作り出すもの。
誇り高き海の民よ！その力、その技術、その知識を、今一度集結せよ！
我々は、ひとつ真紅の旗の下に生きる、刎頸の友（ふんけいのとも）である！

アルフィノ：私はアルフィノと言う。
彼女は、アリゼーだ。
私たちは、この「カルテノー戦没者追悼式典」を見て回っているのさ。
各国のグランドカンパニーの盟主たちが、どういった主張をするのか、楽しみだね。
このリムサ・ロミンサには、メルウィブ提督も仰っていたとおり、2つの蛮族が棲んでいてね。
1つは、サハギン族。蛮神「リヴァイアサン」を崇めている。
もう1つが、コボルド族。こちらは、蛮神「タイタン」を崇めている。
リムサ・ロミンサは、情勢が非常に不安定な国だ。2つの好戦的な蛮族を抱え、大きな帝国拠点もある。
また国内の海賊問題も、まだまだ安定しない。
多くの脅威と問題を抱えているのに、すべての政策が後手にまわり、拮抗が崩れそうな状態なんだよ。
リムサ・ロミンサにしてみれば、帝国を排除するために、海賊と蛮族を何とかして、国内を安定しなければならない。
君のため、黒渦団は、是が非でも蛮族を潰しにかかるだろう。龍船旗の赤を濃くする結果になったとしても。
君のような冒険者が、グランドカンパニー「黒渦団」に加入してくれることを、心待ちにしているのかもしれないよ。



カヌ・エ・センナ：今から500年前の遠い昔……。
精霊を恐れ、洞穴の暗がりに隠れ棲んでいた人々が、長き対話を経て精霊の許しを得て、**森に都を築きました**。
その都の名は「グリダニア」。ヒューランとエレゼンは手を取り合い生きてきました。
今ではムーンキーパーの方々も、少ないながら都に身を寄せ、共に歩んでおります。
この調和と協調が苗床となり、大地と豊穡の女神ノフィカ様の御光を受け、グリダニアという大樹は、繁栄を続けてきました。

アルフィノ：カヌ・工様の後ろ……。グリダニアの国旗を見てごらん。
絡み合う2匹の白蛇は、ヒューランとエレゼンの2種族の協力を示しているのさ。今の話を象徴するものだ。

カヌ・エ・センナ：この蒼れ高きグリダニアを……。いえ、愛すべきエオルゼア全土を侵略せんとする北方の「ガレマール帝国」。私たちグリダニアが、この脅威から森を守るために、グランドカンパニー「双蛇党」を結成して対抗したことは、みなさまの記憶に新しいでしょう。グリダニアは、森の調和を重んじ、歴史上も、侵略者に対して一歩も引かずに戦ってきました。その伝統のとおり、双蛇党は帝国と相対したのです。そして、グリダニアが重んじる調和と協調は、エオルゼア都市軍事同盟の実効化を促し、「エオルゼア同盟軍」の成立へと導いたのです。ですが……。5年前、あの「カルテノーの戦い」が起こりました。この戦いは想像を絶するものでした。多くの戦死者を出したことは事実です……。双蛇党の最高司令官である党首として、私は、責任を痛感しています……。第七霊災で、森は深く傷付き、5年を経た今なお、癒えきってはおりません。森の被害は、みなさまの生活にも深く影響しています。こんな時だからこそ、皆で手を取り合わなくてはならない。それにも関わらず、嘆かわしいことに貧しさに負け、盗賊になる者、密猟者になる者が後を絶ちません。そして、我らが仇敵、イクサル族は、相も変わらず森に侵入してきては、自然の恵みを奪い、精霊の心を乱しています。第七霊災以降、私たちの故郷グリダニアは、不安定な状況が続いているのです。「カルテノーの戦い」は、とても悲しい戦いでした。あの戦いで亡くなられた、数多くの同胞に哀悼の意を表します。



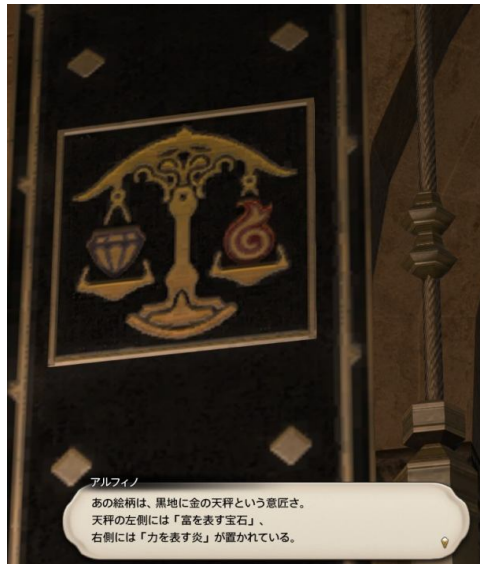
アリゼー：「記憶」を無くしている連中が、誰に哀悼するっていうのよ……。

カヌ・エ・センナ：しかし、ガレマール帝国との戦いは、まだ続いているのです！ 彼らは森に邪なる砦を築き、居座っております。ですが、国内が不安定な状態では、帝国軍を追い払うなど、かなわぬ夢でありましょう。私たちは、再び！ グランドカンパニー「双蛇党」の下で団結し、ガレマール帝国と戦わなくてはなりません！ 「カルテノーの戦い」から5年。この節目の年に、グリダニアの理念……。調和と協調を思い出してください！ そして、今一度、みなさまの結束を！ もう耐えるときは過ぎました。悠久の風は、私たちとともにあります！ 赤心の前に、道は必ず開けるのです！ 精霊の導きと共に、この森に平和を取り戻し、次の500年後の子孫にも、豊かな森を残せるようにしようではありませんか！

アルフィン：やあ、また会ったね。このグリダニアが対処しなければならぬ蛮族勢力は2つ。1つは、イクサル族。カヌ・エ様も仰っていたとおり、蛮神「ガルーダ」を崇めている。もう1つが、シルフ族。基本的にはグリダニアに友好的な種族だが、最近、蛮神「ラムウ」を呼び、態度を硬化させている。グリダニアは、元々、非戦闘的な国だ。黒衣森の力を再興し、森への不可侵性さえ高めれば、グリダニアは平和であるという考え方だよ。しかし、イクサル族は好戦的な蛮族。それに彼らの蛮神「ガルーダ」は強大な力を持ち、性格も残忍だ。いずれにせよ、双蛇党とイクサル族とは大きな戦いを避けられないだろう。それがグリダニアの意思とは反していてもだ。君のような冒険者が、グランドカンパニー「双蛇党」に加入してくれることを、心待ちにしているだろうね。

ラウバーン：黄金の砂嵐が吹くウルダハに集いし、熱き魂を持つ者どもよ！ このウルダハはその昔、「ウル朝」により建国され、交易都市として発展してきた。そして、地底と商売の神ナルザルの加護のもと、砂の都、黄金郷ウルダハとして、繁栄してきた。

アルフィン：ラウバーン局長の後ろ……。ウルダハの国旗を見てごらん。あの絵柄は、黒地に金の天秤という意匠さ。天秤の左側には「富を表す宝石」、右側には「力を表す炎」が置かれている。



ラウバーン：これまでウルダハの繁栄は、巨万の富を生み出した！
5年前の「カルテノーの戦い」においても、皆が財と才を投じ、エオルゼア同盟三都市で、もっとも多くの戦力を提供した！
その結果として、帝国軍第VII軍団を打ち破ったのだ！

アルフィノ：打ち破った……だって？ いったい、誰のおかげで、今があると思っているんだ……。

ラウバーン：だが、多くの兵が帰ってこなかった……。
彼らの魂が、ナルザル神の御許にたどり着き、来世で幸運を掴むことを祈ろう。
かの戦いは、結果的に勝利と呼べるものではなかったかもしれない。
しかし、第七霊災後のこの困難の時代。皆が己のことだけを考えるようになっていった。
ウルダハの現状を見よ。難民が押し寄せ、貧者がそこら中に居る。
それなのに富者たちは、財を投じて助けようとはしない！ 武を誇った者たちも、動こうとはしない！
今の、このウルダハの状況を、カルテノーで戦った友たちに誇れるのか！？
ウルダハを、不滅隊を信じて散っていった者たちに、お前たちのお陰で平和になったと、胸を張って誇れるのか！？
この地に迫る蛮族、アマルジャ族の脅威は相変わらず強く、ウルダハの生命線である交易路を脅かしている。
さらに、「ガレマール帝国」にいたっては、一部地域を占領し、青鱗水などの資源を奪っている。
ウルダハの国難は続いているのだ。
商人による自治を望む共和派も、王家に忠誠を誓う王党派も、ともにウルダハの繁栄を望んでいるはずであろう。
この国難こそ勝機であり、同時に商機である！
富を求めるすべての者よ！ 武を誇るすべての者よ！ 黄金郷ウルダハに憧れし旅人や技師、そして冒険者よ！
目先の富だけを追うのではなく、国を、世界を見据えよ！
今一度、ナナモ女王陛下のもとに結集するのだ。
ウルダハを守るグランドカンパニー「不滅隊」を信じ、私腹を肥やすのではなく、不滅隊に投資しろ！
エオルゼアの益は、ウルダハの国益である！ そして国益は、国民の益である！
ナナモ様。

ナナモ・ウル・ナモ：苦しゅうない。
ウルダハ第十七代国王、ナナモ・ウル・ナモである。
わらわから言うことは1つだけじゃ。
ウルダハの宝は、金銀でも、宝石でもあらぬ。そなたたち民じゃ！
民の知恵、民の勇気、民の笑顔。何より、民の命こそ、ウルダハの誇る最大の宝なのじゃ。
ウルダハの民よ！ わらわとともに、エオルゼア全土を、ウルダハのごとく繁栄に導くのじゃ！

ラウバーン：勝敗は早さと速さが別つ！ すべては永遠なる女王陛下と、ウルダハの繁栄のために！

アルフィノ：やあ、また会ったね。
このウルダハは、蛮神「イフリート」を崇める蛮族、アマルジャ族と歴史的に対立しているね。
おや、もう知っていたという顔をしているね。
ウルダハは、元々、戦闘的な国だ。
蛮神「イフリート」が呼び出されるたびに倒してきた。実際、上手く抑え込んでいる状態だよ。
さらに言えば、アマルジャ族を、共和派と王党派の対立で揺れる国内を固めるための、「共通の敵」として利用していたくらいさ。
だけど、第七霊災を境に状況は変わった。北方からの侵略者「ガレマール帝国」に、深刻化する難民問題……。
この状況では、おいそれと全面戦争は起こせない。現状は様子見というところだろうね。
そして、蛮神対策も限界にきている。蛮神討伐には犠牲がつきものだからね。
アマルジャ族が蛮神「イフリート」を呼び出す回数は確実に増えている。このままでは消耗戦が続くだけさ。
不滅隊の増強は急務だろうね。
特に君のような力ある冒険者が、グランドカンパニー「不滅隊」に加入してくれることを、心待ちにしていると思うよ。
案外、この演説は……。君に向けられたものかもしれないね。

ミンフィリア：……聞こえる？ わたしよ、ミンフィリア。
そろそろ、各国の演説を聴き終わったところかと思って連絡したの。
一度、「砂の家」に戻ってきてくれるかしら。各国のグランドカンパニーの将校さんがお待ちかねなの。
……じゃ、待ってるわね！

タタル : あうう、ご迷惑をおかけしました……。◇◇◇さんの大活躍をみなさんに知ってもらいたくて、ついペラペラと……。

ミンフィリア : おかえりなさい。演説はどうだった？
各国が抱える問題は大きいけれど、あなたならば、きっと解決に向けて進んでいける。
なにを選び、なにを為すか……すべてはあなた次第よ。
とはいえ、長旅で疲れているでしょう？少し休みながら考えるといいわ。決心がついたら、将校さんに伝えてあげてね。

アルフィノ : フフフ。あの冒険者は、どこの国のグランドカンパニーを選んだらうね。
いずれにしても、これで世界は動き始める。

アリゼー : アルフィノ。あなた、本当に、これでいいと思ってる？

アルフィノ : どういうことだい、アリゼー。

アリゼー : 各国の演説を聴いたでしょう？ どの国も自分の国の問題と、綺麗ごとばかり。
原因を深く調べるでもなく……。まるで第七霊災なんて、忘れてしまったかのよう……。

アルフィノ : 確かに、綺麗ごとだったかもしれないがね。
気付いたかい、アリゼー。各国の盟主たちは「光の戦士たち」を引き合いに出さなかった。
「光の戦士たち」は、第七霊災からエオルゼアを救った英雄だ。
その英雄を出さなかったということは、各国が、それぞれに自立を模索しているということ。
このエオルゼアは、霊災で深く傷ついた。それでも、どの国も、明日へ向かって歩みだしている。
蛮族、蛮神……。エオルゼアには、まだまだ問題が山積みだ。
各国のグランドカンパニー。そして「暁の血盟」。彼らは、その問題を解決する「鍵」だよ。
いいかい、アリゼー。明日のために、未来のために。第七霊災は過去にしなければならんだよ。

アリゼー : お祖父様は、あんな奴らに未来を託したわけでも、組織を残したわけでもないわ！
私は……。私のやり方で、世界の明日を見つけてみせます。



アルフィノ : お互い目指すところは同じはずだ。いつの日か、わかり合える日もくるよ。

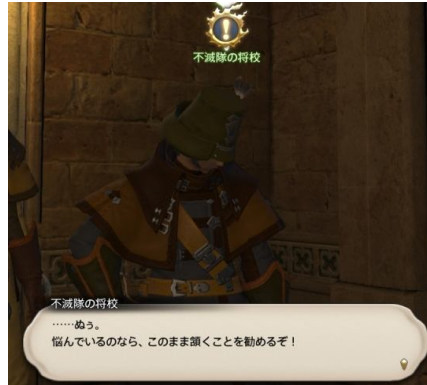
アリゼー : ……だといいわね。

アルフィノ : 無理にでも、わかり合えないといけないのさ。それが僕たち兄妹の宿命なんだから。
それに、「鍵」は扉を開くためにあるだけじゃない。
過去を……。知りたくもない真相を閉じるにも、また「鍵」は必要なのさ。

我が行く道は……（不滅隊）

ミンフィリア：タタルさんのおしゃべりは困ったものだけど、いい機会かもしれないわ。
グランドカンパニーに所属してしまえば、「暁の血盟」との繋がりは、見えにくくなる……。思う存分、活躍できるってこと！

双蛇党の将校：おお、私に声をかけたということは、「双蛇党」への所属を決断してくれたのだな！？
そ、そうか……。早とちりしてすまない。君と志を共にできることを、期待しているよ。



不滅隊の将校：待っていたぞ！ 我らが「不滅隊」に加入する意思は固まったか？
……。ぬう。悩んでいるのなら、このまま頷くことを勧めるぞ！

黒渦団の将校：演説はどうだった？メルウィブ提督の意思が、君を「黒渦団」へ呼び寄せると信じているよ。
焦らせるつもりはないが、迅速な決断を頼むぞ。君の力を、一刻も早く借りたいのだよ。

不滅隊の将校：待っていたぞ！ 我らが「不滅隊」に加入する意思は固まったか？
ありがたい。先日の作戦における裏切りで、信頼を失ったのだと思っていたが……。君の器は、その程度ではないらしい。
我らは素晴らしい戦友を得た！ さっそくウルダハにある不滅隊の「作戦本部」に赴き、正式な入隊手続きを受けてくれ。
不滅隊の「作戦本部」はウルダハのナル回廊にある。受付の「人事担当官」に、君のことを伝えておくから、その者に声をかけてほしい。
では、共に駆ける日を楽しみにしている。我らの刃で、いかなる難敵も退けようぞ！

双蛇党の将校：グランドカンパニーの移籍は自由だ。我ら「双蛇党」は、いつでも君を歓迎しよう。

黒渦団の将校：残念だが、君の意思ならば仕方がない。なに、気が変わることもあろう。そのときは、よろしく頼むぞ。

不滅隊の将校：ウルダハにある不滅隊の「作戦本部」で正式な入隊手続きを受けてくれ。
ラウバーン局長も、君を大いに歓迎するだろう！

人事担当官：よくきたな。ここは、グランドカンパニー「不滅隊」の作戦本部だ。我々に何か用かな？
君が、◆◆◆か！ 既に連絡は受けている。我が「不滅隊」に加入してくれることを嬉しく思うぞ！
早速、各種取り決めの説明と、略式ではあるが入隊式を行うとしよう！

不滅隊二等關兵：報告ッ！

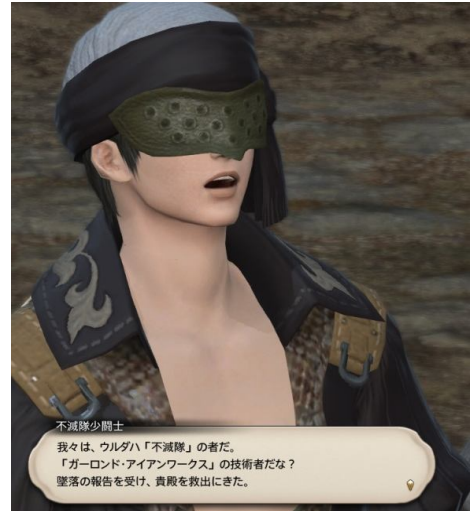
人事担当官：何事だ、さわがしいぞ。

不滅隊二等關兵：偵察部隊より伝令！ 西ザナラン上空にて、ハイウィンド飛空社の小型飛空艇が、帝国軍の砲撃を受けたもよう！
飛空艇は、そのまま西ザナラン、「ホライズン・エッジ」に不時着したとのこと！

人事担当官：なんだと！？ ……ええい、アマルジャ族との小競り合いで、主力が出払っているというのに！
◆◆◆！ 正式な入隊前で悪いが、手を貸してくれ！
飛空艇には民間人が乗っているはずだ！ ……あの辺りは帝国軍の偵察範囲。帝国軍と衝突した場合、惨事は避けられん！
緊急事態につき、この場で特別任官する！ 先行して「ホライズン・エッジ」へ向かい、状況を確認するのだ！

飛空艇の乗組員： その姿……冒険者なのか……！？ ……ここじゃまずい。ちょっと、こっちへ来てくれ。
不滅隊から状況確認に来たんだって？ でも、お前は軍服を着ていないぞ……。……まさか、騙してるんじゃないだろうなッ！？

不滅隊少闘士： 我々は、ウルダハ「不滅隊」の者だ。「ガーランド・アイアンワークス」の技術者だな？ 墜落の報告を受け、貴殿を救出にきた。
お前が、◆◆◆か？ 先行偵察の任、ご苦労である！



ガレマール帝国兵： いつのまに、このような新型の飛空艇を……。シド・ナン・ガーランドめ、どこまで帝国に仇するつもりだ。
飛空艇は、元より我が国の魔導技術によるもの……。それを奴が勝手に持ち出したに過ぎん。エオルゼアにくれてやることはない！
この新型飛空艇は、我が軍が接収する！ その魔導技術者も連行しろ！ 撤収準備にかかれ！



不滅隊少闘士： ……奴ら「カストルム・メリディアム」からの斥候か。飛空艇を接収するつもりだな。

飛空艇の乗組員： 相方を……ウェッジを助けてくれッ！ 逃げ遅れて、まだ「タイニーブロンコ」の中に隠れているんだ！

不滅隊少闘士： タイニーブロンコ！？ ……では、あれが噂の新造艇か！

飛空艇の乗組員： 親方が……うちのシド会長が、第七霊災で行方不明になってから、エオルゼアで初めて製造された飛空艇だ。
ようやく、試験飛行にまでこぎ着けたんだ。……順調に飛んでたのに、くそッ！

不滅隊少闘士： エオルゼアの飛空艇、および、逃げ遅れたガーランド・アイアンワークスの技術者を救出する！
◆◆◆！ お前も協力してくれるな？
よし、総員突撃！ 奴らをザル神の御許に送ってやれ！

ガレマール帝国兵： クソッ、敵襲だ！ 迎撃せよ！

不滅隊の剣術士： 総員、帝国軍を殲滅せよ！

インベリアル・デクリオン： 飛空艇に近づけさせるな！
エオルゼアの野蛮人が調子に乗りおって！
おい、アレを使うぞッ！
ゆけッ、魔導ヴァンガードよ！ 魔導技術の恐ろしさを思い知らせてやれ！

ウェッジ : ビッグスううう！

ビッグス : ウェッジ！ よかった、無事だったか！

ウェッジ : 怖かったッス！

ビッグス : 怪我はないようだな。……どうだ、飛べそうだったか？

ウェッジ : 補助推進翼をやられただけッス。動力を全部、主推進翼に回せば、すぐにでも飛べるはずッス

ビッグス : オレたちは、ここで「タイニーブロンコ」を応急修理して、すぐにでも飛び立つつもりだ。

不滅隊少闘士 : その間、周辺は我々が警戒しよう。先ほどの帝国兵は斥候のようだったからな。しばらくは援軍も来ないだろう。
◆◆◆！ お前は、ウルダハの不滅隊本部へ戻り、正式に入隊手続きを済ませるといい。
お前のような、すばらしい冒険者を、一刻も早く、不滅隊の一員として迎え入れたいのだな！ 作戦本部には私から連絡しておこう。

ビッグス : ……さっきは疑ってすまなかった。ありがとうな！ おかげで助かったぜ！
礼は！？

ウェッジ : 助けてくれて、ありがとうッス！！

人事担当官 : ◆◆◆よ、無事に帰還したか。今しがた報告を受けたところだ。よくぞやってくれたな！
ワッハッハ！ 有能な冒険者と聞いてはいたが、まさか正式配属前に、ひと仕事終えてしまうとは！
「ガーランド・アイアンワークス」の技術者たちも、あの後、無事に帰還したと聞く。安心するといい。
それにしても、君は噂以上の逸材のようだ。我が「不滅隊」に志願してくれたことを、誇りに思うぞ。
……では、途中になっていた入隊式を行うとしよう！



富と国のため

人事担当官：では、改めて……。ようこそ「不滅隊」へ！

◇◇◇ ◆◆◆。君を心より歓迎しよう！

……**グランドカンパニー**とは、**国家存亡の危機に立ち向かうため、都市国家が一丸となるべく結成される組織。**

我ら「不滅隊」は、蛮神やガレマール帝国、さらには霊災という国難を乗り越えるために結成され、今なお戦いの最中にある！

我らは最高司令官であるラウバーン局長の下、荒野を行く商隊の如く、一丸となって協力し、各々が役割を全うせねばならん！

君にも、隊列に加わる者として、さまざまな任務に就いてもらうことだろう。

「**富と国のため**」のモットーに従い、栄光の富を手にするべく、全力をもって、己が務めを全うせよ！

◆◆◆。入隊にあたり、何か宣誓することはあるか？

全力を尽くします

冒険もがんばります

ラウバーン局長に尽くします

答えない

うむ、荒野に生きる者は、時に沈黙をもって答えるもの。その心に秘められし決意、確かに受け取った！

◇◇◇二等閑兵。君の不滅隊への入隊を許可する！ 只今、この瞬間をもって不滅隊の一員と認められた。

不滅隊の、いやウルダハのために、その力を存分に振るうのだ！ その奮闘を期待する！



ミンフィリア：……聞こえる？ わたしよ、ミンフィリア。

「不滅隊」の将校さんから連絡があったわ。無事にグランドカンパニーに入隊できたようね！ よかったわ。

一度、「砂の家」に戻ってきてくれるかしら。あなたに紹介したい人がいるの！ ……じゃ、待ってるわね！

ババリモ：霊災以降、各国はグランドカンパニーを中心とした組織再編を行ってきた。その過程で、吸収された組織も多い。

グリダニアの鬼哭隊や神勇隊も、今は双蛇党の一角さ。リムサ・ロミンサでは、バラクーダ騎士団が

黒渦団に吸収合併されてるしね。

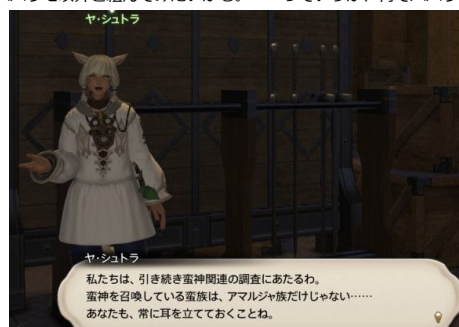
ウルダハでは、相変わらずそれぞれが独立性を維持してるみたいだけど……。何にせよ、今や各国に必要な不可欠な組織ってわけだ。

イダ：冒険者で、「暁の血盟」の仲間で、今度はグランドカンパニーにも入って……キミはフクザツだねえ。

でもちょっと楽しそうだなー。アタシも、たまにはババリモ以外と組んでみたいかも。……っていうか、何でババリモなんだっけ？



イダ
でもちょっと楽しそうだなー。
アタシも、たまにはババリモ以外と組んでみたいかも。
……っていうか、何でババリモなんだっけ？



ヤ・シュトラ
私たちは、引き続き蛮神関連の調査にあたるわ。
蛮神を召喚している蛮族は、アマルジャ族だけじゃない……
あなたも、常に耳を立てておくことね。

ヤ・シュトラ：私たちは、引き続き蛮神関連の調査にあたるわ。蛮神を召喚している蛮族は、アマルジャ族だけじゃない……
あなたも、常に耳を立てておくことね。

サンクレッド : ラウバーン局長は、不滅隊の裏切りについて、とても残念がっていたよ。
吾輩が国内問題に目を向けている間に、ここまで腑抜けたか……ってね。
でも、ああいう輩ばかりでもないんだ。長年近くで見てきたから肩を持つわけじゃないが、わかってやってくれ。

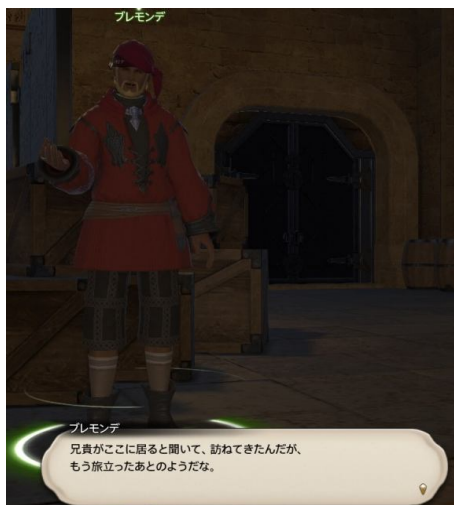
ウリエンジェ : 己が使命に準じるとも……志を同じくすれば、いずれまた……ここで……。
我らが知の都も今は幻……。暁の陽が輝くまで……流れ行く、砂と共に……。



ブレモンデ : 兄貴がここに居ると聞いて、訪ねてきたんだが、もう旅立ったあとのようだな。
第七靈災で兄弟と生き別れて、旅の行商をしながら、2人を探しているのさ。まったく、どこをほったき歩いているのやら。

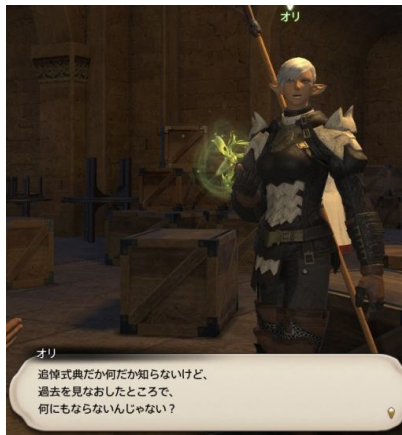
リアヴィヌ : あら、あなた……どこかで見た顔ね。この館にいるということは、もしかして、特別な冒険者ってことかしら？
……期待されているのね、うらやましいわ。私には何も誇れるものがないから……。

ウナ・タユーン : 隣のペルスパンと話しているうちに、いろいろ思いだしてきたの。確か、もうひとり仲間がいたはずなのよね……。



オリ：追悼式典か何だか知らないけど、過去を見なおしたところで、何にもならないんじゃない？
蛮族、蛮神、帝国軍……そんなものより、もっと強大な脅威がいまにも現れるかもしれない。
きたる未来にこそ、目をむけるべきなのよ。

アレンヴァルド：お前は、どのグランドカンパニーを選んだんだ……？ 俺みたいなアラミゴ人には、どこも居心地が悪そうだな。



暁の血盟員：よく帰ったな、◆◆◆！ さ、お前も早く入れよ！ ミンフィリア様もお待ちだぜ。

ミンフィリア：おかえり！ 早速の活躍だったみたいじゃない！
将校さん、興奮して大変だったんだから。これで我がグランドカンパニーは、大躍進間違いなしですぞー！ って。
わたしも、あなたの活躍が、自分のことのように嬉しいの！
そして、わたしたち「暁の血盟」にとっても、嬉しいことがあったのよ！
タタルさん。

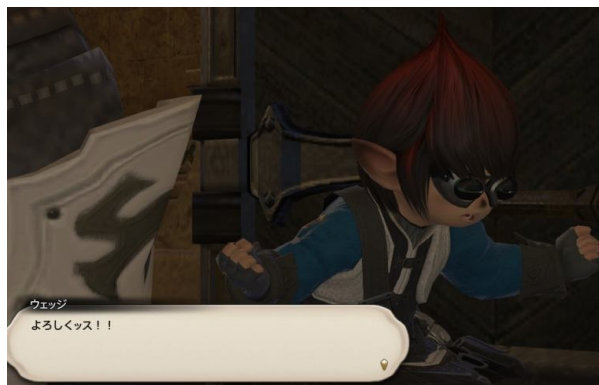
タタル：こちらです！

ビッグス：オレはビッグス。あの時は世話になったな！ お陰で助かったぜ。
しばらくの間、ここでやっかいになる。よろしくな！

ウェッジ：ウ、ウ、ウェッジ……ッス！

ビッグス：挨拶は！？

ウェッジ：よろしくッス！！



ミンフィリア：あなたが救出した「ガーランド・アイアンワークス」の技術者さんたち。この「暁の血盟」で、保護することになったのよ。
飛空艇をはじめとする魔導技術は、エオルゼアのどの都市にとっても重要なもの。
だから、中立の立場にあるわたしたちが保護することになったのよ。技術者さんたちも、喜んで協力を申し出てくれたわ。
そういうわけで、また「暁の血盟」に仲間が増えました！ みんなで、仲良くやっていきましょう！
わたしはエオルゼアを愛しているわ。もちろん、この「暁の血盟」も。
「暁」の仲間が増えて、みんなで協力して、エオルゼアのために活動することが幸せでたまらないの。
あなたには感謝してる。……ありがとう。